

事 務 連 絡  
平成23年12月 9日

会員の皆様

(社)埼玉県精神保健福祉協会事務局

### 第60回精神保健シンポジウムの開催のお知らせ

標記の事業を、別添の通り行います。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

3月11日の東日本大震災は、数々の教訓を残しました。協会では11月13日に実際に被災地に出向いた関係者からパネルディスカッションにより状況報告をいただき、問題点の整理を行いました。

今回のシンポジウムは(財)日本精神衛生会と共催で、「埼玉県で重大な災害が起こったらどうするのか。」を皆様と共に考えるものです。

特別講演には新潟県中越地震に対応された福島先生から、シンポジウムでは災害弱者といわれる障害者のための避難所を運営された齋藤先生から、また被災者の健康管理の面から有馬先生、菅野先生から、学校へのカウンセラーを派遣した経験から花村先生に、それぞれ具体的な提案をいただく予定です。

皆様体験された通り、震災時はあらゆるものが通常通りに動かなくなります。通常時に決めていたことが動かないのですから、決めていないことは災害時には絶対に出来ません。地方自治体の防災計画には精神保健福祉は含まれていないことところがほとんどです。また、決められていても自治体職員も一緒に被災しますので機能しにくくなります。

子ども、障害者、高齢者、病者等の災害弱者といわれる方々のケアについて、専門家の話を聞きながら、考えてみたいと思います。一人でも多くの方が参加し、共に考えられればと思います。

問合先：(社)埼玉県精神保健福祉協会事務局

小野・福島

電話：048-723-5331

財団法人日本精神衛生会

第60回精神保健シンポジウム



# 「災害時のこころのケア」

～どう備え、どう対応するか～

❀日時 平成24年1月14日(土) 午後1時から4時  
❀場所 さいたま文学館 文学ホール

❀内容 第1部 特別講演  
「こころのケアシステムをどう作っていくかー現状と問題点ー」  
講師 福島 昇氏(新潟市こころの健康センター所長)

第2部 シンポジウム

「東日本大震災での経験を活かして  
～こころのケアシステムはどうあるべきか～」

シンポジスト

指定発言

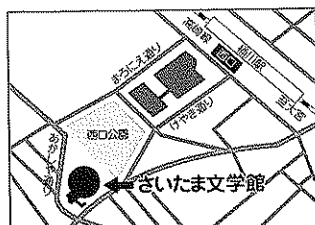
災害弱者をケアする立場から ～福祉避難所を運営して～  
仙台市宮城野障害者生活支援センター「ハンス宮城野」  
齋藤 栄樹氏

- 1 保健師の立場から  
川越市総合保健センター 有馬 理恵氏
- 2 医師の立場から  
東武中央病院 菅野 隆氏
- 3 臨床心理士の立場から  
埼玉社会保険病院 花村 温子氏

❀定員 200名(申込不要、当日先着順)、入場無料、手話通訳あり

❀問合せ 埼玉県精神保健福祉協会事務局  
048-723-5331 (TEL/FAX)

✉ [kokoro-saitama@nifty.com](mailto:kokoro-saitama@nifty.com)



〒363-0022 桶川市若宮1-5-9  
JR高崎線「桶川駅」西口徒歩5分

主催:財団法人日本精神衛生会、社団法人埼玉県精神保健福祉協会  
共催:埼玉県精神科病院協会、埼玉精神神経科診療所協会

